

行事報告書(例会)

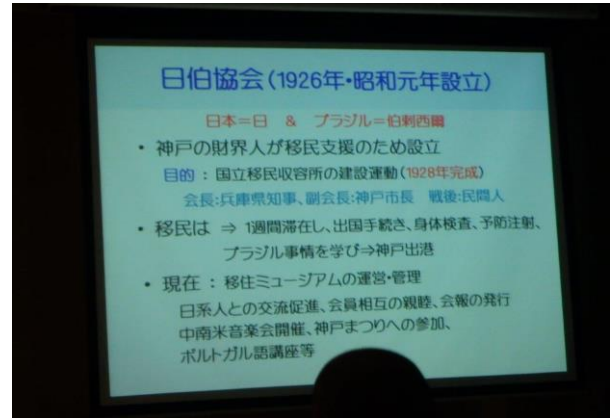
報告者: 飯盛秀穂

行事名	平成29年度2月例会 施設見学(神戸市内・2施設)
実施日時	平成30年2月22日(木) 10時~15:20時 天候:晴れ
行先・場所	海外移住と文化の交流センター及び竹中大工道具館
主旨・行程	午前:海外移住と文化の交流センター (移住ミュージアム) 午後:竹中大工道具館
参加者	MNC 38名(男性:24名、女性:14名)
経過・状況	<p>10:00、JR元町駅東改札口北側に集合としていたが、早い到着組は日の当たる南側で待機。41名の参加予定であったが3名が欠席。出欠確認後鯉川筋を北上、20分弱で海外移住と文化の交流センターに到着。すぐに5階の講堂に案内され、こちらに事務所を置く一般財団法人 日伯協会の専門調査員:天辰充幸さんから昭和の初めに出来たこの建物から新天地を目指し旅立って行った日本の移住に関する講義を頂いた。移住の歴史は明治の初めに始まったが過酷で悲惨な実態であった由。その後国家事業として推進されるも現地では辛酸をなめる生活が続いたが、農業をあきらめ町に出てクリーニング業や商店を開く移民も出ている。農業では自家農園までこぎつけた家族は財を成し地域に貢献している。</p> <p>講義の後は1階・2階の移住に関する展示を見学。50日以上をかけてブラジルを中心に南米各地に入植していったが、船中の様子や現地での農業用具なども展示されており、苦難の連続であったことが良く理解でした。</p> <p>1階の展示場で開催中のブラジル移民110年記念行事「大原治雄写真展」も拝見できた。</p> <p>午後は13:20新神戸駅1階・東側に再集合であったが、不慣れなメンバーもいて集合に手間取り約束の時間を少し遅れて入館。当館は竹中工務店のCSR活動のために公益財団法人として神戸本社の跡地に作られ(1984年)、4年前に現在地に移転。</p> <p>37名が2班に分かれ竹谷さんと福寿さんに案内頂く。時にクイズを交えながらの解説は微に入り、大工道具の細かい説明から、並々ならぬ愛情が感じられ、グイグイと引き込まれる。カンナの解説の中で「几帳面」、「ろくでなし」という言葉や、鋸の説明時に「おがくず」の語源は大工道具から発生したことなど興味深く拝聴。女性軍が大変熱心に聞いている姿には少々ビックリ、新鮮に映った(男性の中には複数回見学者もいたから?)</p> <p>展示関係では「和の伝統美」コーナーの障子やふすま、「木を生かす」コーナーでは各種樹木の特徴などを熱心に見入る人が多かった。終了予定時間を15分延長して解説いただき、班ごとに流れ解散とした。解説いただいた両氏に感謝申し上げたい。</p> <p>反省会はJR三ノ宮駅北側の店で17名の参加、懇親を深めた。</p>
まとめ・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸在住、あるいは勤務された人も初めて訪問した・・・というメンバーが結構いた。 ・両施設、複数回入館しているが、スタッフの説明でよく理解出来た。(展示だけを見学していたが内容が薄いものであった) ・移住ミュージアムでは壮絶な移民の苦労が分かった。 <ul style="list-style-type: none"> ・西回りで渡航していたことを知る。 ・国家事業であったが国家間の齟齬あり ・ブラジルに190万人の日系人がいる事 ・ブラジルの国づくりに貢献(農業、新首都ブラジリアの建設等) ・竹中大工道具館では、 <ul style="list-style-type: none"> ・膨大な大工道具と創意工夫、技術力の高さを知る ・日本の伝統美が再確認意義深かった ・木の文化国、技術の高さに誇りを覚えた

写真添付(集合、風景、スナップ、サイズ 640×480 程度/枚)



移住ミュージアム正面



天辰さんによる移住の歴史についての講演



竹中大工道具館「和の伝統美」コーナー



「木を生かす」コーナーで解説を聞く



竹中大工道具館入口にて